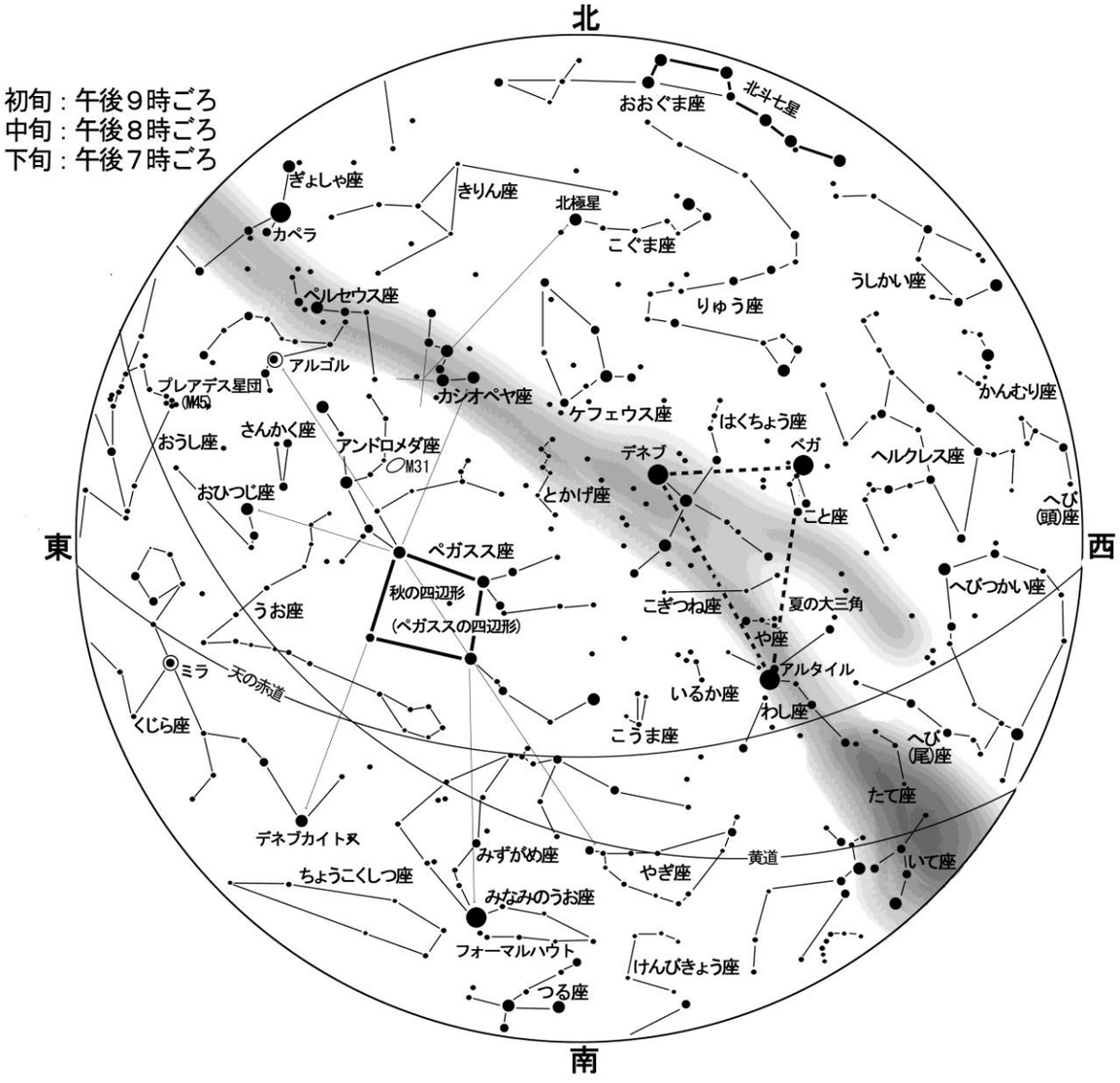
平成 28 年　10月の星空さんぽ☆ガイド　～ほしを眺めてみませんか～



日	曜	天　文　現　象	日	曜	天　文　現　象
1	土	●新月（09:11）	23	日	◑下弦（04:14）
9	日	◐上弦（13:33）	28	金	明け方東の空で、月と木星が接近
16	日	○満月（13:23）	30	日	夕方西の空で、金星と土星が接近
21	金	オリオン座流星群が極大のころ	31	月	●新月（02:38）

★10 月の星空案内

今月の星空では、頭の真上あたりに握り拳より一回り大きい四角形の星の並び“**秋の四辺形**”があります。“**秋の四辺形**”は「**ペガスス座**」の一部なので、“**ペガススの四辺形**”とも言われています。秋の星座めぐりのよい案内役“**秋の四辺形**”を使って星座を探しましょう。まず、“**秋の四辺形**”の西（右）の辺を南にのばしていくと、秋の星座をつくる星で唯一の一等星**フォーマルハウト**を見つけることができます。ここには「**みなみのうお座**」があります。次に、“**秋の四辺形**”の東（左）の辺を北にのばしていくと、W 字をなぞる５つの星の並びにぶつかります。この星の並びが「**カシオペヤ座**」です。さらに、“**秋の四辺形**”の北東角（左上）の星を頂点とした“アルファベット A の字”の星の並びが「**アンロメダ座**」です。このあたりにぼんやりかすかに光る雲のようなものが**アンドロメダ銀河（M31）**です。**アンドロメダ銀河**は、私たちの天の川銀河のとなりの銀河です。となりと言っても、地球から約 230 万光年（光の速さで約 230 万年かかる距離）離れています。

秋の夜長に、秋の四辺形から星や星座、**アンドロメダ銀河**を探してみてはいかがですか。

＜現在見える惑星＞

水星（−0.9 等級前後）：おとめ座付近	上旬、夜明け前、東の低空で輝く。（下旬は、観測に適さない。）
金星（−4.0 等級前後）：てんびん座付近	日没後、西の低空でひときわ輝く。
火星（ 0.2 等級前後）：いて座付近	19 時頃、南の空で赤っぽく輝く。
木星（−1.7 等級前後）：おとめ座付近	観測に適さない。
土星（ 0.5 等級前後）：へびつかい座付近	19 時頃、南西の低空で黄色っぽく輝く。

注目の天文現象（10 月）　～水星を見る絶好のチャンス～

水星は太陽の近くを公転する惑星なので、日の出直前、日の入直後の低い位置にあることが多く、観測に適さない時期がしばしばあります。しかし、９月 29 日に太陽の西側へ最大に(18 度)離れた水星が今月上旬頃、夜明け前の東の空で明るく輝いています。2016 年のうち、もっとも高く見やすい水星の位置にあり、11 日には夜明け前、ほぼ真東の空で、水星と木星が接近するようすを見ることができます。早起きされた朝は、一年の中でも観測可能な時期が少ない水星を観察されてみてはいかがでしょうか。

福岡県青少年科学館
サイエンスラボ